資料２－２

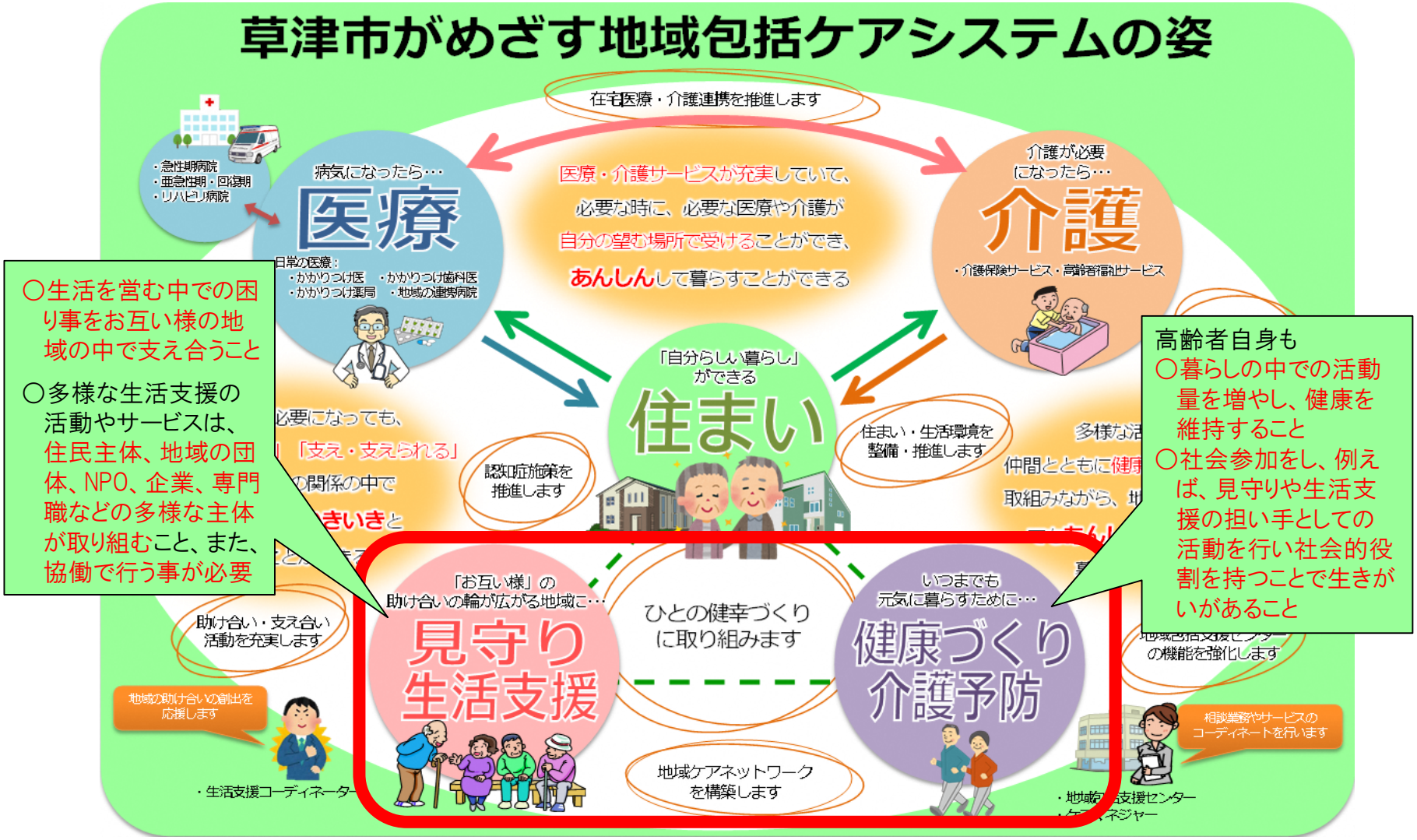
生活支援体制整備事業について

～住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けられる、まちづくりのために～

草津市　長寿いきがい課
地域保健課

地域包括ケアシステムの構築について

〇高齢化の進展だけでなく、単身世帯や高齢者のみの世帯が増加し、支援を必要とする高齢者が増加することで、生活支援の必要性が増大していく中・・・



〇生活を営む中での困り事をお互い様の地域の中で支え合うこと

〇多様な生活支援の活動やサービスは、住民主体、地域の団体、NPO、企業、専門職などの多様な主体が取り組むこと、また、協働で行う事が必要

高齢者自身も

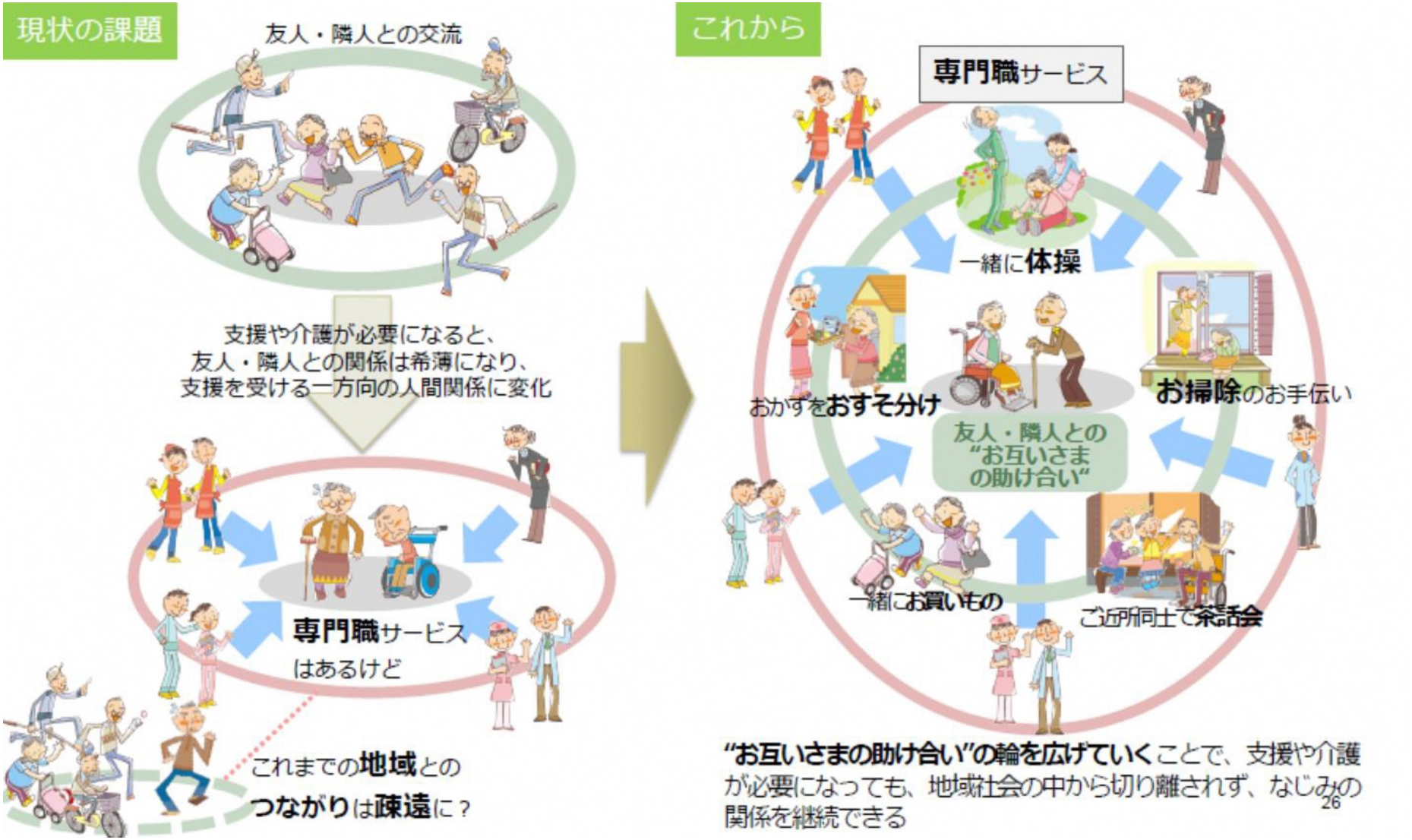
〇暮らしの中での活動量を増やし、健康を維持すること

〇社会参加をし、例えば、見守りや生活支援の担い手としての活動を行い社会的役割を持つことで生きがいがあること

誰もが暮らしやすい地域づくりをいかに進めるか

地域包括ケアシステムの構築について

医療・介護のサービスが充実しただけでは、３６５日地域で暮らし続けることは容易ではありません。
介護が必要になる前から地域で気にかけ合い・見守り合い・支え合うことが重要です。



出典：三菱UFJリサーチ＆コンサルティング 「地域支援事業の介護予防・日常生活支援総合事業の市町村による円滑な実施に向けた調査研究事業　新しい総合事業における移行戦略のポイント解説（中間報告）」
平成27年度厚生労働省老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業）

重点施策

基本施策(1)地域ケアネットワークの構築
基本施策(2)助け合い・支え合い活動の充実

事業

2　生活支援体制整備事業の推進

【目的】
地域の様々な関係者のネットワークを構築し、高齢者の生活に必要な地域資源を把握するとともに地域の高齢者の困り事は何かを考え、必要な地域資源を拡大・創出することで、高齢者の介護予防やお互い様の声かけ・見守りをはじめとする生活支援の充実を推進する。
→地域包括ケアシステムの構築＝住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けられるまちづくりの推進

1．協働の基盤づくり
チームを組み、試行錯誤の協働を通じてチーム力を高めていく

2．地域資源の把握と地域課題の抽出
地域づくりを「自分ごと」として捉える人を増やすと同時に、資源の充実に向けた方針を検討する

3．地域資源の充実
①多様な参加のきっかけ作り
②今ある活動やサービスの強化
③新たな活動やサービスの開発

生活支援コーディネーター
（地域支え合い推進員）
＋
協議体

第１層（市域全域）
第２層（小学校区）

第１層協議体、生活支援コーディネーター
役割
◇地域横断的な課題の抽出や資源の充実
・複数の第２層、市全域、広域で左記の機能を実施

本市における協議体・コーディネーターの配置・構成

※ＳＣとは　生活支援コーディネーター

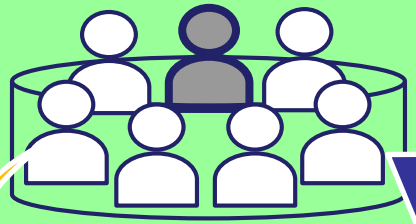
第1層（市域全域）

草津市あんしんいきいきプラン委員会
（＝ 第1層協議体）

第1層SC（長寿いきがい課）

第1層協議体

平成31年2月27日開催の第3回草津市あんしんいきいきプラン委員会において、草津市あんしんいきいきプラン委員会を第1層協議体と位置付けることを了承いただいています。



【役割】
市域全域や複数の2層に関わる広域的観点から
◎企画、立案、方針策定を行う場
◎地域づくりにおける意思統一（方向性の共有）の場
◎地域づくりを推進するための施策等の検討

第2層（小学校区）

第2層SC　第2層SC　第2層SC

第2層協議体　第2層協議体　第2層協議体

ＳＣは市社協へ委託
協議体：「学区の医療福祉を考える会議」において、
地域課題から地域づくりを行う主体

【あんしんいきいきプランにおける重点施策目標】

地域の暮らしの問題を「我が事」と捉えて話し合える場を増やします！

【生活支援体制整備事業における協議体設置数】

現状値		目標値
0 学区	→	14 学区
（2016 年度）		（2020 年度）

【役割】
各小学校区（第2層）において、
◎有機的なネットワーク化
◎ニーズと取組のマッチング
◎地域資源の発見・新たな創出

重点施策

基本施策(１)地域ケアネットワークの構築
基本施策(2)助け合い・支え合い活動の充実

2層（小学校区単位）での取り組み

〇地域づくりの推進に向け高齢者の暮らしの問題を「我が事」と捉えて話し合う（共感→共考→共働）場を増やしています。
〇小学校区毎に「学区の医療福祉を考える会議」を開催。R2.3月末現在 12小学校区で開催。

〔STEP1 共感・共考〕

〇認知症高齢者や要介護で支援が必要な高齢者にとって、声掛け・見守り・ちょっとした手伝いや居場所があれば地域で生活ができることを共有。
〇地域の高齢者の居場所を出し合い、居場所の現状を共有。
〇町内会単位の活動を広げ、地域なりの見守り活動を深めよう。
〇地域にある介護事業所の役割や地域とのつながりの取り組みについて知ろう。　など

〔STEP2 共働〕

〇学区の医療福祉を考える会議の地域の方への周知（新聞、地域のイベントでのブース啓発など）
〇認知症の勉強会、地域安心声かけ訓練の実施
〇地域に新たな居場所の創出
〇地域サロン交流会の実施
〇日頃の高齢者支援での専門職と地域の支援者の連携　　など

地域づくりの推進　～学区の医療福祉を考える会議より①～

〔順不同　R2.3末時点〕

学区・地区	開催回数	現在の状況　等
笠縫東学区	（平成24年～） 計17回開催	・老・老介護者、独居高齢者、認知症高齢者の生活課題等について意見交換を繰り返し実施（～H27まで） ・高齢者が集まる「地域サロン」等の活性化に向けた具体策を検討（H30） ▼ ・地域と介護サービス事業所との懇話会を開催し、互いの協力関係を強化（R1） 〔現状・課題〕地域で取り組む課題の明確化、解決に向けた取り組みにつながらない ⇒事前打ち合わせ、会議の持ち方、メンバーの見直し
老上学区	（平成24年～） 計18回開催	・認知症に関する研修、事例を通じた地域の支援、認知症ケアパス・地域資源マップの作成など（～H28まで） ・地域で見守る仕組みとして交流を通じた居場所・拠点が必要（H29） ➡「地域支え合い運送支援事業」の開始、「カフェほっこり」の開催（H30） ▼ ・「（仮称）命のバトン」の配布を学区内で進めるため、プロジェクトチームを結成し検討中（R1） ➡本来の「命のバトン」の目的だけでなく、学区の課題である「新旧の地域との繋がり」にも役立てられるツールとしたい。
老上西学区	（平成24年～） 計18回開催	・認知症に関する研修、事例を通じた地域の支援、認知症ケアパス・地域資源マップの作成など（～H28まで） ・「地域支え合い運送支援事業」の開始（老上学区と合同運営）（H30） ▼ ・認知症高齢者の事例を検討、学区内の支え合い活動について共有（R1） ・「地域安心声かけ訓練」を実施（R1）

地域づくりの推進　～学区の医療福祉を考える会議より②～

〔順不同　R2.3末時点〕

学区・地区	開催回数	現在の状況　等
山田学区	（平成25年～） 計17回開催	・地域と専門職が連携し、地域で支え合い活動を広げる。 ➡地域団体の活動を知り、その良さを広めるため、大根炊きフォーラムを地域の施設（えんゆうの郷）で実施（H30） 小規模多機能型居宅介護事業所より、地域とのつながりの事例紹介（R1） 〔現状・課題〕 ・地域活動のすばらしさが地域の方に十分理解されていないため、新たな活動者が増えず過度な負担となってきている。 ▷地域のつながりを醸成するような活動を会議に取り入れるよう検討中
志津学区	（平成27年～） 計17回開催	・志津のあんしんつながりノートの作成・配布など（～H29まで） ・認知症になっても安心なまち志津を目指し、認知症サポーター養成講座、地域安心声かけ訓練の実施（H30）、認知症研修の開催（R1）につながる。 ▼ ・認知症になっても安心なまち志津を目指して、居場所づくりや居場所を広げるために「あんしん居場所マップ（仮）」の作成等を検討中
矢倉学区	（平成27年～） 計12回開催	・立ち上げ期より、認知症に関心が高く、町内会単位の様々な地域活動を周知し、「矢倉なりの見守り活動」の普及を目指す。 ▼ ・矢倉なりの見守りを広げるため、「憩」をはじめとした居場所を広げていく。（H30～）

地域づくりの推進　～学区の医療福祉を考える会議より③～

〔順不同　R2.3末時点〕

学区・地区	開催回数	現在の状況　等
常盤学区	（平成27年～） 計10回開催	・地域資源マップの作成を通じて学区の特徴を知り、在宅介護生活について理解を深める。（～H29まで） ・事例を通じて認知症になっても続けたい生活（サロン活動等）について理解を深める。（H30） ・元気なうちからサロン等への参加を通じて、「助けて」と言える地域、認知症になってもつながり続けられる地域を目指し、サロンの担い手である福祉協力員と講師を招いて勉強会を実施。また、訪問看護師や民生委員の体験談や草津市未来ノートの紹介を聞き、「人生の最後まで自分らしく生きる」をテーマに話し合いを行った。（R1）
渋川学区	（平成27年～） 計8回開催	・地域資源マップや認知症ケアパスの作成を通じて学区の特徴を知り、認知症について理解を深める。（～H28まで） ・町内会や活動団体単位での啓発を目的に、介護サービス事業所の協力による座談会「わいわいがやがや」を発足（H28） ・「つながり」を広めるために、地域団体、介護事業所、医療機関に「すでに行っていること」「自分たちができること」「あったらいいなと思うこと」をアンケートし、マッチングした結果、「つながれる居場所づくり」のために、医師への相談を中心とした健康相談会を実施（H30、R1） ▹「つながれる居場所づくり」をどう継続展開していくか検討中
南笠東学区	（平成28年～） 計6回開催	・地域資源マップの作成を通じて学区の特徴を知り、高齢者の暮らしの問題について理解を深めた。 ・どのような資源が地域にあるといいのか話し合い、「話すところ」や「送迎」が必要という意見が多かった。（H30） ▹すでにある支え合い活動を共有し、地域にこれから必要なことを考える。

地域づくりの推進　～学区の医療福祉を考える会議より④～

〔順不同　R2.3末時点〕

学区・地区	開催回数	現在の状況　等
玉川学区	（平成29年～） 計7回開催	・「人づきあいが希薄」「必要な情報が届かない」「担い手がいない」「認知症」をテーマに高齢者の暮らしの問題について理解を深め、共通して「つながりづくり」が大切であることを認識する。 ・4町内会の取組を報告し、意見交換をする。（H30） ・専門職と地域がつながることを目的に、地域の施設（萩の里）で会議を開催し、施設見学や夏祭りに参加して、施設と地域がつながれることについて意見交換をする。（R1）
笠縫学区	（平成29年～） 計23回開催	・「認知症」に関する勉強会や研修等を開催。 ・3年目に具体的な行動につながり、初めての「おでかけ“ふれ愛”模擬体験」（声かけ訓練）を実施。地域の団体と介護サービス事業所が協力して和やかな雰囲気で行われた。（R1） ▹学区全体へ広げていこうとエリアを変えて継続実施予定
草津学区	（平成30年～） 計3回開催	・「つながり」の大切さについて、共通理解を深める。 ・健幸を語りあうプロジェクトに参加している介護事業所、包括、市社協（生活支援コーディネーター）の役割を地域の方に紹介（R1） ・プロジェクトを地域に周知していく方法として、豚汁会（イベント）でPRを行った。（R1） 〔現状・課題〕 ・地域として希薄化の実感があり、学区としてどのように「つながり」を広げられるか検討中 ・プロジェクトの認知度を上げ、地域内での関心を高める方法について検討が必要

地域づくりの推進　～学区の医療福祉を考える会議より⑤～

〔順不同　R2.3末時点〕

学区・地区	開催回数	現在の状況　等
志津南学区	第1回目を 開催予定 （令和2年度）	〔現状・課題〕 ・子育て世代が多い地域と高齢者世帯が多い地域と2極化している。 ・学区内の若草地域では、高齢化率が40％を超えており、主体的に居場所や支え合い活動に取り組まれている。 ▷地域だけでなく専門職とも連携し、地域の支え合いのしくみづくりを目指す。会議開催に向けて福祉セミナーを実施予定（R2予定）
大路区	（調整中）	〔現状・課題〕 ・駅前地域でマンションが林立し希薄化が顕著。 ・町内会やマンション単位で展開されている地域サロンや百歳体操等の活動団体へのアプローチにより、地域づくりに対する気運を高める必要あり。